

安全データシート  
ギルヘマトキシリン#3

作成日:2011年4月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品等及び会社情報

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| 製品名          | ギルヘマトキシリン#3       |
| 製品コード        | CS-4022           |
| 会社名          | 株式会社ファルマ          |
| 住所           | 東京都渋谷区大山町 36-7    |
| 電話番号         | 03-6407-2570      |
| FAX番号        | 03-3465-0300      |
| 電子メールアドレス    | tokyo@falma.co.jp |
| 緊急連絡先        | 080-8878-0242     |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 試験研究用:病理検査用組織染色液  |

2. 危険有害性の要約(製品の情報はないので、成分のデータから区分を推定した)

GHS 分類

|           |                      |                               |
|-----------|----------------------|-------------------------------|
| 健康に対する有害性 | 皮膚腐食性/刺激性            | 区分 1                          |
|           | 眼に対する重篤な損傷性<br>/眼刺激性 | 区分 1                          |
|           | 特定標的臓器毒性<br>(単回ばく露)  | 区分 1(中枢神経系、血液系、<br>腎臓)        |
|           |                      | 区分 2(呼吸器)<br>区分 3(気道刺激性、麻酔作用) |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性(急性)          | 区分 3                          |

上記以外の項目は、区分外、分類対象外又は分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
中枢神経系、血液系、腎臓の障害  
呼吸器の障害のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
水生生物に有害

注意書き

安全対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

|      |   |
|------|---|
| 応急措置 | <p>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>蒸気を吸入しないこと。</p> <p>取扱い後は手などをよく洗うこと。</p> <p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。</p> <p>汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当を受けること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。</p> <p>眼に入った場合、飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。</p> <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。</p> |
| 保管   | <p>容器を密閉し、換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。</p>  |
| 廃棄   | <p>内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。</p>  |

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別  
成分及び濃度

混合物

| 成分         | 濃度(%) | CAS 番号     | 官報公示整理番号<br>(化審法) |
|------------|-------|------------|-------------------|
| ①エチレングリコール | 25    | 107-21-1   | (2)-230           |
| ②硫酸アルミニウム  | 10.6  | 10043-01-3 | (1)-25            |
| ③水酢酸       | 6     | 64-19-7    | (2)-688           |

### 4. 応急措置

|           |  |
|-----------|--|
| 吸入した場合    | <p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>   |
| 皮膚に付着した場合 | <p>汚染された衣類をすべて脱ぐこと。</p> <p>皮膚を水で洗うこと。</p> <p>汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当を受けること。</p> |
| 眼に入った場合   | <p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続</p>  |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | けること。<br>直ちに医師に連絡すること。<br>口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。<br>直ちに医師に連絡すること。   |
| 飲み込んだ場合               |  |
| <b>5. 火災時の措置</b>      |  |
| 消火剤                   | 水、粉末、二酸化炭素、砂   |
| 特有の危険有害性              | 火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。<br>加熱により容器が爆発するおそれがある。  |
| 特有の消火方法               | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  |
| 消火を行う者の保護             | 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。  |
| <b>6. 漏出時の措置</b>      |  |
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置  | 作業には必ず保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。<br>必要に応じ換気する。  |
| 環境に対する注意事項            | 漏出物を河川や下水に直接流してはならない。  |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材       | 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。   |
| <b>7. 取扱い及び保管上の注意</b> |  |
| 取扱い                   |  |
| 技術的対策                 | 弱く染色したい場合は、25%エチレングリコールで希釈する。浮きかすがある場合、濾過して使用すること。   |
| 安全取扱注意事項              | 使用前に使用説明書を入手すること。<br>すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。<br>適切な局所排気、全体換気を行う。<br>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。<br>容器は丁寧に取り扱い、使用後は密栓すること。<br>接触、吸入又は飲み込まないこと。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| 接触回避                  | 強酸化剤、強塩基   |
| 衛生対策                  | 取扱い後は手などをよく洗うこと。   |
| 保管                    |  |
| 安全な保管条件               | 酸化剤から離して保管する。<br>使用した溶液は、元の容器に戻さないこと。<br>容器を密閉し、換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。   |
| 安全な容器包装材料             | ガラスビン、ポリエチレンボトル  |

8. ばく露防止及び保護措置

|                      | ①   | ②                   | ③                            |
|----------------------|---|---------------------|------------------------------|
| 管理濃度                 | 未設定   | 未設定                 | 未設定                          |
| 許容濃度                 |   |                     |                              |
| 日本産業衛生学会(2018年版)     | 未設定   | 未設定                 | 10 ppm, 25 mg/m <sup>3</sup> |
| ACGIH(2017年版)TLV-TWA | 25 ppm  | 2 mg/m <sup>3</sup> | 10 ppm                       |
| TLV-STEL             | 50 ppm  | (AIとして)             | 15 ppm                       |
| 設備対策                 | 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。<br>蒸気が発生する場合は、局所排気装置を設置すること。 |                     |                              |
| 保護具                  |   |                     |                              |
| 呼吸用保護具               | 必要に応じ、適切な呼吸器保護具を着用すること。                                       |                     |                              |
| 手の保護具                | 保護手袋を着用すること。  |                     |                              |
| 眼の保護具                | 保護眼鏡、保護面を着用すること。  |                     |                              |
| 皮膚及び身体の保護具           | 必要に応じ、保護衣を着用すること。   |                     |                              |

9. 物理的及び化学的性質

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 物理的状态           |        |
| 形状              | 液体     |
| 色               | 赤褐色    |
| 臭い              | 酢酸臭    |
| pH              | データなし  |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲    | <100°C |
| 引火点             | データなし  |
| 蒸発速度(酢酸ブチル = 1) | データなし  |
| 燃焼性(固体、ガス)      | データなし  |
| 爆発範囲            | データなし  |
| 蒸気圧             | データなし  |
| 比重(相対密度)        | 約 1    |
| 溶解度             | 水に溶解   |
| 自然発火温度          | データなし  |

10. 安定性及び反応性

|            |   |
|------------|---|
| 反応性        | 通常の条件下において安定。                             |
| 化学的安定性     | 常温、常圧下で安定。                                |
| 危険有害反応可能性  | 強酸化剤、強塩基と反応する。                            |
| 避けるべき条件    | 高温  |
| 混触危険物質     | 強酸化剤、強塩基。                                 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、硫酸化物、炭素酸化物、ヨウ素酸化物を発生する。 |

11. 有害性情報(製品の情報はないので、成分のデータから区分を推定した)

|                   |   |
|-------------------|---|
| 急性毒性              | 製品の成分濃度から、区分外   |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性      | ①ヒト 103 人に対するパッチテストにおいて、刺激性がみられた(SIDS(2009))ことから区分 2。<br>③ウサギあるいはモルモットを用いた試験(PATTY(5th, 2001)、ACGIH(2004))及び濃度から区分 1。   |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | ①ヒトの事故例が報告されている(DFGOT vol. 4(1992))が濃度等については詳細不明であることから区分 2B。<br>③ウサギの眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じた(ACGIH(2004))ことから区分 1。  |
| 呼吸器感受性            | ①データ不足のため分類できない。<br>③データ不足のため分類できない。  |
| 皮膚感受性             | データなし   |
| 生殖細胞変異原性          | データなし   |
| 発がん性              | データなし   |
| 生殖毒性              | ①ラットを用いた混餌投与での三世代生殖毒性試験において生殖発生毒性に対する影響は認められなかった((ATSDR(2010)、NITE 初期リスク評価書(2007))。マウスを用いた飲水での連続交配試験では、母動物毒性はないが極めて高用量で胎児への影響がみられた(ATSDR(2010))。母動物毒性のみられない用量において主に骨格奇形等の児動物への影響がみられたが極めて高用量であり、作用機序がヒトに該当しないとの明確な証拠が得られなかったことから分類できない。   |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露)   | ①ヒトにおいて、経口摂取後毒性影響がみられ(SIDS(2009)、CEPA(2000))、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある(NITE 初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))。ヒトの吸入経路では、79 ppm 以上で激しい痛みとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))ことから、区分 1(中枢神経系、血液系、腎臓)、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)。<br>③ヒトで大量に摂取後、播種性血管内凝固障害、重度の溶血等を起こした症例報告(ACGIH(2004))から区分 1(血液)。ヒトで吸入ばく露による上気道、肺への刺激性(PATTY(5th, 2001))、気道腐食性、肺水腫が見られ(ICSC(J)(1997))、実際に発症した報告(ACGIH(2004))があることから区分 1(呼吸器系)。<br>製品の成分濃度から、区分 1(中枢神経系、血液系、腎臓)、区分 2(呼吸器)、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)。 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露)   | ①実験動物では反復ばく露による毒性は低いと考えられる  |

が、ヒトにおける高濃度反復ばく露による影響の有無に関して十分な知見がなく、データ不足のため分類できない。

③データ不足で分類できない。

誤えん有害性

データなし

12. 環境影響情報(製品の情報はないので、成分のデータから区分を推定した)

水生環境有害性(急性)

①魚類(ニジマス)の 96 時間  $LC_{50}=47000 \mu\text{g/L}$ (環境省リスク評価書第 3 巻(2004))から、区分 3。

②甲殻類(ミジンコ) $EC_{50}=12.8 \text{ mg/L/48H}$ に基づき、区分 3。

③甲殻類(オオミジンコ)での 48 時間  $EC_{50} = 65000 \mu\text{g/L}$ (AQUIRE, 2010)であることから、区分 3。

水生環境有害性(長期間)

①急速分解性があり(BOD による分解度:90%)、かつ生物蓄積性が低いと推定される( $\log Pow = -1.36$ )ことから、区分外。

②急性毒性が区分 3、金属化合物であり水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、区分 3。

③急速分解性があり、生物蓄積性が低いと推定される( $\log Kow=-0.17$ (PHYSPROP Database, 2005))ことから区分外。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

非該当

国内規制

非該当

注意事項

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法

①、②、③名称等を通知すべき危険有害物

①、②、③名称等を表示すべき危険有害物

①、②、③危険性又は有害性等を調査すべき物

化審法

①優先評価化学物質

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。